

コロナ禍における 若者の 生きづらさ

自傷とOD

(オーバードーズ)

講師:松本 俊彦 氏

国立精神・神経医療研究センター 薬物依存症センター

座長:近藤 毅 氏

琉球大学大学院医学研究科 精神病態医学講座 教授

かかりつけ医等心の健康対応力向上研修

11
25
金

19～21時

受付18:30～

開催方法

オンライン (Zoom)

対象

内科医、小児科医等かかりつけ医、精神科医、学校医、研修医、精神保健医療福祉業務に携わる方

定員

250台 *医師優先

申込

裏面QRコード、またはURLよりお申し込み

コロナは感染症としての脅威だけではなく、コミュニケーションの希薄化、社会不安の長期化、経済の停滞、雇用不安、イジメ、差別など様々な形で人の心を蝕んでいます。沖縄でも令和3年度自殺者数が増加に転じ、中でも若年者の自殺の増加が目立っています。若者の心に寄り添う術を知ろうにも、すでにSNSが当たり前の時代において若者独自のコミュニティを私たちは理解出来ずにいます。これまでのやり方では通用しないのだろうか?そもそも、若者の心に一体何が起きているのだろうか?コロナ禍で更にその間は深まったのか?国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部部長で薬物依存症センターセンター長の松本俊彦先生に御講演頂く事になりました。日常診療や学校保健で遭遇する心の問題を考える貴重な機会です。

—— 玉井 修先生(那覇市医師会副会長)

2 単位
Cc 00
日本医師会生涯教育講座
最新のトピック (医師のみ)

令和4年度かかりつけ医等心の健康対応力向上研修 参加申込み方法

申込

受講者には事前に研修用URL、資料等をメールにて送付いたします。
それぞれのQRコード、またはURLよりお申し込みください。

<医師専用>

お申込みフォーム

URL : <https://forms.gle/PT6H7EevyA9kCabP7>



<その他（医師以外）>

お申込みフォーム

URL : <https://onl.bz/G86vEnr>



※ **申込締切：11月4日（金）** 参加申込後、キャンセルされる場合は早めにご連絡ください。

上記方法でお申し込みできない方はメールにてご連絡下さい。
件名に「11/25かかりつけ医等研修」、本文に下記必要事項をご記入の上 higafudu@pref.okinawa.lg.jp
まで送信ください。

記

1. 所属名
2. 氏名
3. 職種
4. 資料送付用メールアドレス
5. 連絡先（電話番号）
6. 医師のみ必要事項
 - 1) 診療科
 - 2) 所属地区医師会
 - 3) 生年月日（西暦）
 - 4) 修了書送付先（郵便番号、住所）

講師紹介

松本 俊彦（まつもととしひこ）氏

1993年佐賀医科大学卒業。横浜市立大学医学部附属病院での初期臨床研修修了後、国立横浜病院精神科シニアレジデント、神奈川県立精神医療センター医師、横浜市立大学医学部附属病院精神科助手、医局長を経て、2004年に国立精神・神経センター（現、国立精神・神経医療研究センター）精神保健研究所 司法精神医学研究部専門医療・社会復帰研究室長に就任。以後、同研究所 自殺予防総合対策センター自殺実態分析室長、同 副センター長などを歴任し、2015年より同研究所 薬物依存研究部 部長に就任。さらに2017年より国立精神・神経医療研究センター病院 薬物依存症センター センター長を併任。

【資格】

精神神経学会精神科専門医・指導医、精神保健指定医、精神保健判定医

【学会等役員兼務】

日本精神科救急学会理事、日本社会精神医学会理事、日本学術会議アディクション分科会特任連携委員

【受賞】

2006年 星和書店「精神科治療学」優秀論文賞、2017年 日本アルコール・アディクション医学会 柳田知司賞、2021年 Neuropsychopharmacology Reports Topic Award2021、2022年 日本エッセイスト・クラブ賞 など

【主著】

「自傷行為の理解と援助」（日本評論社、2009）、「自傷・自殺する子どもたち」（合同出版、2014）、「アルコールとうつ、自殺」（岩波書店、2014）、「もしも「死にたい」と言われたら-自殺リスクの評価と対応」（中外医学社、2015）、「誰がために医師はいる-クスリとヒトの現代論」（みすず書房、2021）など著書多数。

【主催】沖縄県立総合精神保健福祉センター 【後援】沖縄県医師会

【問合せ先】沖縄県立総合精神保健福祉センター TEL 098-888-1443（比嘉・當山）